

グローバル30枠外国人留学生の入学後成績評価

研究成果のポイント

1. グローバル30^{注1)}入試(「私費外国人留学生特別コース入試」)の学生は、他の入試枠の学生に比べて入学後の成績が良いことがわかりました。
2. グローバル30計画開始後、外国人留学生数は着実に増加しています。
3. グローバル30の有効性が確認されました。

国立大学法人筑波大学 アドミッションセンターの研究グループは、筑波大学が2010年度から実施してきたグローバル30(以下、G30と略)入試(「私費外国人留学生特別コース入試(学群^{注2)}英語コース入試」)で入学した学生について、学内成績を指標とした追跡調査を行いました。

その結果、一般入試(前期個別学力検査)、推薦入試で入学した学生よりもG30の学生のほうが好成績であることがわかりました。また、従来の私費外国人留学生入試に比べて、G30特別入試は、留学生数を飛躍的に増加させることに成功していると考えられるとの結果を得ました。

本研究の成果は、2018年3月発行の「大学入試研究ジャーナル」第28号で公開されます。

研究の背景

筑波大学は、「国際性の日常化」構想を推進する中で、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する環境の構築を図っています。2009年度にはG30に採択されたのを契機、英語による授業のみで学位が取得できるコースを増設するとともに、優秀な留学生を集めるために、留学説明会の開催、現地で受験できる入試、入学後のサポートの実施など、留学生受入れ体制の充実を図ってきました。

採択年度の2009年度には「国際化推進委員会」および「国際戦略室」を設置し、2010年度には学群^{注2)}と大学院に英語での授業のみを受けて卒業できるコース(英語プログラム)を開設しました。学群の英語プログラムとして開設したのは、「社会国際学教育プログラム」と「生命環境学際プログラム」の2コースです。学群コースへの学生募集は2009年度に開始し、2010年8月に21名の第1期生が入学しました。

優秀な外国人留学生を集めるため、独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」を設け、G30学群英語プログラムに入学した優秀な留学生には、入学金及び授業料の免除を制度化し、定員の半数程度を目安とした奨学金の付与、授業料の全額又は半額不徴収を行っています。

海外でのPRのため、従来は2地域2か所であった海外事務所を、7地域13事務所に拡充しました。また、優秀な外国人留学生の受入環境の整備として、海外からの留学生が受験しやすいように、WEB出願や、現地における入学者選抜・テレビ会議やSNSを用いたネット入試などを導入しています。さらには、入学後の支援として、日本人学生と留学生がいっしょになって学修や情報交換等ができる空間スチューデント・コモンズを開設しています。

今回、こうした取組みの成果を検証するために、留学生数と成績についての調査を行いました。

研究内容と成果

2010年度からの、社会国際学群と生命環境学群1年次へのG30入試入学者の2015年度末までの学業成績を調査しました。社会国際学群の1年次の入学定員は160名、生命環境学群の1年次の入学定員は250名です。2010年度のG30入学者数は、前者が7名、後者が14名でしたが、その後入学者数の割合は年ごとに増加し、2016年度はそれぞれ20名と31名でした。G30による入学者の出身国は、2016年度の入学者までの累計で66か国・地域となっています。

G30入学者の成績と、前期個別学力検査(一般入試)で入学した学生の成績、推薦入試で入学した学生の、入学年度ごとの成績を、A⁺とA 評価の取得割合(%)で比較しました(図)。その結果、G30入学者の方が、前期個別学力検査(一般入試)の成績、推薦入試入学者よりも好成績であることがわかりました。

ただしこのデータでは、前期個別学力検査による入学者と推薦入試による入学者の成績として、2010年度入学者については2013年度末までの成績、2011年度入学者については2014年度末までの成績、それ以降の入学者については2015年度末までの成績が使われています。もしG30入学者と同様に2010年度入学者と2011年度入学者についても2015年度末までの成績を使用すると、留年者の成績が含まれるため、前期個別学力検査による入学者と推薦入試による入学者のA割合の値は多少低下するものと考えられます。

また、留学生数の推移としては、従来の私費外国人留学生入試では、社会国際学群と生命環境学群を合わせても 2007年度からの入学者がずっと数名であったのに対し、グローバル30特別入試の入学者は数十名となっており、留学生数を飛躍的に増加させることに成功していると考えられます。

今後の展開

今回の評価では、卒業までの4年間の成績を評価したのは 2010 年度と 2011 年度に入学した学生で、その後に入学者については卒業までの評価となっておりません。データが揃えば今後も継続して追跡調査を行う必要があると考えています。

参考図

A⁺、A 取得率平均

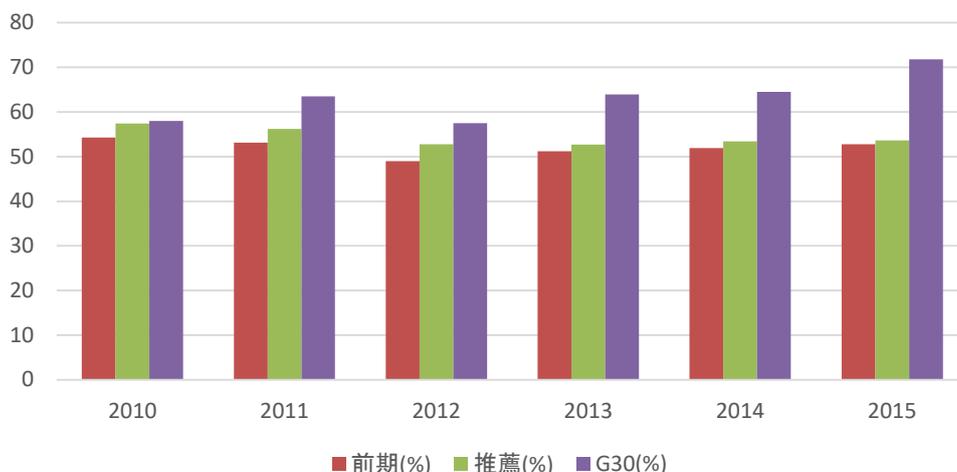


図 G30 入学者、前期個別学力検査(一般入試)入学者、推薦入試入学者の、入学年度ごとの成績評価。A⁺とA 評価の取得割合(%)を示している。

用語解説

注1 グローバル30(G30)

文部科学省が2008年7月に策定した、2020年を目処に30万人の留学生の受入れを目指す「留学生30万人計画」の達成を目指すための一環として計画された「国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)」の略称。2009年度に開始され、国立7大学、私立6大学の計13大学が採択された。

注2 学群

筑波大学では、「学部」に代わる組織として「学群」を置いている。

掲載論文

【題名】 筑波大学 Global30 学士課程入試の追跡調査

【著者名】 白川 友紀、松井 亨、本多 正尚、大谷 奨、島田 康行

【掲載誌】 大学入試研究ジャーナル No.28

<http://www.dnc.ac.jp/research/nyukenkyou/kankoubutsu.html>

問い合わせ先

白川 友紀 (しらかわ とものり)

筑波大学 アドミッションセンター 特命教授

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

E-mail: shirakaw@iit.tsukuba.ac.jp

Tel: 029-853-8284